

2024（令和6）年度

# 外部評価報告書

2024（令和6）年12月



## 目次

1. 外部評価の実施概要
2. 外部評価委員名簿
3. 外部評価委員による評価結果
4. 意見交換会時の主な意見等
5. 総括

## 1. 外部評価の実施概要

### 【1】「外部評価シート」の作成

外部評価委員へ「令和6年度熊本学園大学外部評価シート」及び関係資料を送付し、「2023（令和5）年度自己点検・評価報告書」等に基づき、以下の4項目について評価をいただいた。

- [1] 基準4 教育課程・学習成果
- [2] 基準5 学生の受け入れ
- [3] 基準7 学生支援
- [4] その他（大学全般について）

[1]、[2]、[3]については、4段階（**4** 大変適切である、**3** 概ね適切である、**2** やや適切ではない、**1** 適切ではない）にて評点を付していただくとともに、全4項目について意見を聴取した。

### 【2】意見交換会の実施

I 日 時：令和6年9月17日（火） 15:00～16:30

II 場 所：熊本学園大学 本館3階 特別会議室

III <会次第>

1. 開会
2. 学長挨拶
3. 外部評価委員の紹介
4. 大学関係者の紹介
5. 意見交換

評価項目1：「基準4 教育課程・学習成果」について

評価項目2：「基準5 学生の受け入れ」について

評価項目3：「基準7 学生支援」について

そ の 他：評価項目以外の自己点検・評価項目及び大学業務全般に関する意見交換

6. 閉会  
学長挨拶

<司会進行>得重学長室長

<外部評価委員出席者>洲上敬介委員、藤本浩明委員、三浦基路委員

<本学側出席者>林学長、金副学長、立木副学長、土井副学長、得重学長室長、  
西村事務局長

<陪席>教務部長、学生部長、事務局次長、教学部事務部長、入試広報部部長、教務課  
長、学生課長、就職課長、インクルーシブ学生支援センター事務室長、  
総務課長、総務課長補佐

## 【外部評価委員による評価までの経緯】

6 月 上 旬：外部有識者への評価の依頼（外部評価委員の委嘱依頼）

6 月 21 日（金）：委員委嘱状の送付

8 月 2 日（金）：外部評価に関する資料(2023(令和5)年度自己点検・評価報告書、  
令和6年度熊本学園大学外部評価シート等、意見交換会のご案内)の送付

9 月 11 日（水）：「令和6年度熊本学園大学外部評価シート」の提出締切

9 月 17 日（火）：外部評価に関する意見交換会の実施

## 2. 外部評価委員名簿

令和6年9月17日現在

(順不同・敬称略)

氏名	役職等
江頭 実	菊池市長
小金丸 健	熊本県総務部長
洲上 敬介	肥後銀行執行役員 北熊本ブロック長
藤本 浩明	熊本県立東稜高等学校校長
三浦 基路	九州旅客鉄道株式会社執行役員 熊本支社長

### 3. 外部評価委員による評価結果

#### [1] 基準4 教育課程・学習成果について

評点 (平均)	3.4/4.0
------------	---------

#### <評価に関する意見等>

- 大学全体の教育理念・目標に基づき、毎年度、学長からの方針に沿ってカリキュラムが編成されており、大学のビジョンを実現するため共通理解を図ること、またその具現化は適切に行われている。
- カリキュラムの順次性・体系性を示すカリキュラムツリー・マップを示し、各学位に相応しい授業科目を開設され、教育課程を体系的編成されていることは非常に素晴らしい。今後参考としては地域社会の動向も鑑みながら、教育課程を編成されるともっと深みと幅が表現されると思われる。
- 「カリキュラムツリー」や「カリキュラムマップ」が履修要項に示されている点は、学生が履修する科目の順次性や体系性を理解しやすくしており、自主的かつ計画的な学習が促進されている。
- 2024年度より、全学的教育改革により、熊本へのTSMC進出等にも対応した時代のニーズに応えるカリキュラムの構築、これまでにはないプログラムの新設など、貴学の魅力化に積極的に取り組まれていることは評価できる。
- 「授業評価アンケート」「学修成果に関するアンケート」「卒業時・後アンケート」「アセスメントアンケート」(1年・3年次)などを通じ、学生の学習成果を適切に把握・評価する態勢が整っている。今後の活用意見としては、回収状況・分析レベルの向上、分析結果による改善策と対応策の公表、経済学部以外の学習成果の可視化など行われると良い。
- 「得られたデータ等の測定方法を含め、改善が求められている。」とあるが、学内で複数の学部等で共有化できる測定方法を含め、標準化しても良いのではないか。
- 各種データは学習成果だけではなく、学生生活のフォローや学生募集まで活用できる仕組みを構築していく必要があるのではないか。
- TSMC進出により、高校生も大学生も大きなチャンスだと思っている。どういう生徒、学生を育てたいか、同じ熊本の高校と大学で共通理解をもったほうがよい。

## [2] 基準5 学生の受け入れについて

評点 (平均)	3.4/4.0
------------	---------

### <評価に関する意見等>

- 学生の受け入れ方針（アドミッションポリシー）を大学全体、学部・学科、さらには研究科・専攻ごとに策定し、それをHP、大学案内、入試案内等で適切に公表されている。
- 各学科における新カリキュラムの設置、クマガク地域リーダー育成プログラム、学部横断プログラムの開設など、柔軟かつ時代のニーズに応じた教育を提供している点は、学生の受け入れといった観点から、高く評価できる。
- 熊本県の状況を見ると、半導体関連企業の進出などにより経済的・社会的に大きな転換期を迎えており、他の地域からの人口流入による新たな需要創出が見込まれる。そのような中、学科別の定員については長期的な視点を持って、学生の受け入れ活動を行っていく必要があると考える。
- 多様な入学者選抜の実施によって、学生の多様性を担保し、定員確保を図ることは適切に行われている。また、個性にあふれ様々なスキルを持つ学生が集まることで、教育環境が豊かになり、学生どうしが互いに学び合える機会が増えることが期待される。
- 経済学部で、数学重視型と英語重視型を導入されていることは、データ活用人材、DX人材、グローバル人材を育成される中で効果的だと考える。引き続き積極的な入試制度の改革に期待する。
- 第二部社会福祉学科の定員確保が困難とあるが、オンライン受講等の手法を導入されているのか。昼間に勤務する社会人が多くの対象者であれば、通学や拘束時間に対するネガティブ要素を解消する方法があるのではないかと考える。
- 社会人をターゲットにした学び直し・リスキリングについて、注目度が高まっている。まずは熊本県内企業の社会人を対象にニーズを拾いつつ、大学院研究科の活用や地場企業との連携と言った貴大学における強みを活かしたプログラムを編成し、学生受け入れ機会の拡大を図ることが考えられる。
- 大学院の収容定員に対する在席者数が課題としてあげられているが、リカレントやリスキリングなどに焦点を当てたカリキュラム等は実施されているのでしょうか。県内に半導体企業が進出する中、今後、貴大学で実施されているデータサイエンスや国際経済分野の実践教育など、企業あるいは社員個人のニーズとして大いに期待されるのではないかと考える。

### [3] 基準7 学生支援について

評点 (平均)	3.6/4.0
------------	---------

#### <評価に関する意見等>

- ハラスメント対策について、規定、ガイドラインを整備しウェブサイトに掲載している。また、相談員窓口についても20名程度の多くの教職員を配置しきめ細やかな対応をされていることを評価している。
- インクルーシブ学生支援センターを設置し、しょうがい等のある学生支援を積極的に実施されていることは大変評価できる。また、支援センターは、なんでも相談室、しょうがい学生支援室、保健室の3部門が連携した体制で実施されており、全国の大学の中でも先進的な取り組みだと考えている。
- インクルーシブ教育の継続性は、単に制度の整備だけでなく、教員やスタッフが障害のある学生に対する理解を深め、また、すべての学生にとっても多様性理解や共生の機会を広げ、より豊かな教育体験を提供することにつながると期待される。
- ハラスメントに関する相談件数の増加、内容の問題についての傾向が気になるところである。教授等の兼務だけで、専門性の意見が必要ないか今後の検討促進をしていただきたい。また、生活困窮者の相談支援体制も支援の必要がある。
- 学修支援体制で一部資格取得者への奨励金が行われていることは非常に素晴らしいことであると認識しているが、今後はもっと大学として導きたい学生の資格取得者や語学研修などへの指導・育成を拡大する事が望ましいと考える。
- 社会人として人生を切り開いていける力を育成するキャリア形成支援、学生の個性を大切にしたきめ細かい職業的進路の選択支援、進路先への学園としての具体的なアプローチ(営業)は行われているのか。
- 大学が優秀な学生を集め、教育の質を高めるためには、奨学金や授業料の減免などの経済的支援が極めて有効な手段になる。特に、現代の大学教育においては、多くの学生が経済的な理由で大学での学びを諦めるケースも少なくなく、学費負担が大きな課題となっている。こうした状況に対処するため、経済的支援をさらに強化することは、より多くの優秀な学生を惹きつけ、学内の学習環境や研究のレベル向上につながると期待される。

#### [4] その他（大学全般について）

- 入学者定員の安定確保に向けて、「この大学で学ぶことが未来につながる」という魅力を感じさせ、貴学への進学を後押しする情報をより高等学校等へ発信することが望まれる。
- 熊本県では台湾を中心としたグローバル化が進展しており、これを取り込んだ教育プログラムの充実も大学の競争力を高めるための有効な手段ではないか。地域と国際社会とのつながりを深め、学生に実践的な国際経験を提供することは、大学にとって大きな強みとなると考える。
- 日本国内の大学発ベンチャーが2023年度において4,288社（経済産業省HPより）と過去最高となっている。貴大学においてもベンチャー企業との連携はされているが、学生や卒業生のベンチャー立ち上げが増えるような取り組みを行ってはどうか。貴大学発のベンチャー企業が社会的に注目されると、他の在学学生への刺激となりモチベーションアップが期待できるほか、社会人や高校生などからの貴大学の注目度も高まると思われる。
- 学校法人熊本学園の第2次中期経営計画において、退学率等のKPIを定め進捗状況を定量的に把握していることは評価できる。また、留年者数等の数値を公表していることもデータ開示の観点から良いと考える。
- 現在も積極的な学生支援が行われていますが、十分なセキュリティ対策を施したうえで、個人データを活用することで、健康面への支援、学習支援、退学防止、就職支援などにつなげ、熊本学園大学ならではの更にもきめ細やかな支援策が構築されるのではないかと考える。
- 熊本学園保有の資産運用・形成の高度化について
  - 遊休不動産の有効活用、グリーンキャンパスの収益拡大に向けた多角化戦略、預金資産の高利回り運用、学内キャンパスの有効利用と学内研究ゼミ等のマネタイズ化
- 従業員のモチベーション向上による人的資本経営と学生主体の顧客本位態勢整備
  - 学生感動サービスの実現(学生のロイヤルカスタマー戦略)→SNS インフルエンサー
  - 教職員のモチベーション向上による高品質な顧客(学生)本位態勢の実現
  - 教職員のやりがいの向上による学園・授業の魅力あるプレゼン力の強化
  - 教職員のエンゲージメント向上による職場での心理的安全性の確保→総労働時間の見直し、適正な時間管理の実現、始業・終業時間・夏休み等の検討
  - 大学発の地域価値の向上・教職員・学生の幸福度向上による地域価値の向上

## 4. 意見交換会時の主な意見等

### 【基準4】

- アンケートについては分析や具体的な教育課程への反映を課題として挙げられているが、その通りであると考え。分析・対応・評価というサイクルを行うことが必要と考える。
  - 多くのアンケートを実施していますが、全てに対して分析・対応・評価というサイクルが回っているとは言えません。しかしながら、授業評価アンケートのような重要なアンケートなどに対しては、計画・実施・分析・対応等の対応を行っています。今後は、教学 IR という意識を全教職員で持ち、アンケートの効果的な活用を行っていきたいと考えています。
- 学習成果の可視化など、大学の学びで身につけた成果を明確に示せるよう、ルーブリック等を活用し、学生に対してより具体的なフィードバックを提供することができるシステムの充実等により、貴学の教育の質がさらに向上することが見込まれる。
  - ルーブリック等を活用し更に教育の質が向上をとすることは課題として認識し、現在、検討を行っています。近年中に結果を出す予定です。

### 【基準5】

- 多様な入試制度への取り組みとその結果をどのように評価されているのか知りたい。
  - 昨今、総合型選抜・学校推薦型選抜のように年内に実施される入試に受験を希望する生徒数が増加しています。それらとは異なるタイプの総合型選抜【事前体験型】の導入も行い、生徒に多様な入試制度の提供を図っています。
  - 選抜方法等については入試委員会を開催しながら適正性の確認などの評価、そして見直し、検討等の改善を行っています。しかしながら、入試に係る要素が多く、改善はすぐには難しいというのが現状です。
- 大学院の収容定員に対する在席者数が課題としてあげられていますが、リカレントやリスキリングなどに焦点を当てたカリキュラム等は実施されているのでしょうか。
  - 大学院を改組し、商学研究科と経済学研究科を刷新し、商学・経済学研究科を設置しました。新たな研究科によるカリキュラムでは、リカレント、リスキリング、そして、データサイエンスをも念頭に構成されています。また、令和6年度より、リカレント、リスキリングを念頭に置いた履修証明プログラムを導入しています。

#### 【基準7】

- ハラスメントに関する相談件数の増加、内容の問題についての傾向が気になる場所である。教授等の兼務だけで、専門性の意見が必要ないか今後の検討促進をしていただきたい。
  - 「学校法人熊本学園ハラスメント撲滅宣言」をハラスメントに対する意識を高めるために教職員全体に示しています。また、差別と人権に関する講演会を実施し、ハラスメントに対する意識を更に高める努力をしています。また、学生に対しては、ハラスメントに関する冊子の配布、そして、ハラスメント相談ガイドで相談窓口の周知等を行うなど大学全体で学生への支援体制を整えています。
- 今後はもっと大学として導きたい学生の資格取得者や語学研修などへの指導・育成を拡大する事が望ましいと考える。熊本学園の学生の強みをもっと伸ばしていく教育体制が望まれる。
  - 経済学部を中心に語学支援を実施しています。また、就職課による全学生向けのTOEIC IP 公開テストの実施、各種資格取得に向けた課外講座を設けています。
- 大学が優秀な学生を集め、教育の質を高めるためには、奨学金や授業料の減免などの経済的支援が極めて有効な手段になる。
  - 本学独自の特待生制度を設けています。また、学生課により生活支援などのサポートを行っています。

#### 【その他】

- 文系にもベンチャーに興味を持っている学生がいるのではないのでしょうか？熊本学園大学初のベンチャーが出現すると大きな宣伝効果にもなるのではないのでしょうか？
  - 肥後創生塾などベンチャー創出のイベントを開催しています。これらを発展させてベンチャービジネスの創出にも貢献していきたいと考えています。
- 中期経営計画の立案・実践・運営の状況はどうなっているのか？
  - 現在、中期経営計画の2期目の4年目です。昨年度見直しも行き、組織の活性化を図る予定です。ご意見を参考にさせていただき、第3期の立案に役立たせていただきます。教職員の働きがいあげるにより、組織の活性化を図っていきます。

## 5. 総括

本学では、毎年度、本学における教育研究活動と管理運営等の状況について、部局毎に、部局自身による点検と評価を行なっており、その結果を自己点検・評価報告書としてまとめている。内部質保証推進委員会は、その報告書に基づき結果を検証して改善に結びつけ、本学の教育研究活動と管理運営等の質を継続的に向上させる必要がある。その推進には、自己点検・評価の信頼性と妥当性と高めることが必要不可欠であり、そのために学外の有識者による評価をいただいている。今年度も昨年度と同様に 5 名の委員に、自己点検・評価報告書の「基準 4 教育課程・学習成果」「基準 5 学生の受け入れ」「基準 7 学生支援」について評価をいただき、その評価に関する貴重なご意見を多数いただいた。昨年度は前出の基準 4 と基準 5、「基準 9 社会連携・社会貢献」であったが、今年度は本学が常に重要視している基準 4 と基準 5 はそのままに、学生との連携・支援について評価をいただくべく基準 9 を「基準 7 学生支援」に置き換え、評価をしていただいた。次年度以降も、基準 4 と基準 5 はそのままに、他の基準をローテーションさせ、本学全体の教育研究活動と管理運営等の質を継続的に向上させる予定である。

内部質保証推進委員会より、自己点検・評価報告書と外部評価結果に基づき各部局に対して改善指示を行っており、改善指示後に提出される改善報告書の検証においても、外部評価でいただいたご意見を参考にさせていただく。最後に、本学の内部質保証にご協力いただいた外部評価委員の皆様には謝意を表す。

### 2024（令和 6）年度外部評価報告書

2024（令和 6）年 12 月

熊本学園大学内部質保証推進委員会